

授業科目	社会的養護Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	山根 正夫						
授業概要	実務家教員としての経験を踏まえて、近年の社会的養護を取り巻く環境の変化に応じた方向性の中から、社会的養護Ⅰについての理解を基盤として更に子どもの権利擁護を基礎において実際の社会的養護の内容について共に考え実践に向けた授業を展開します。						
授業形態	対面授業			授業方法	テキストを通読して、当該演習箇所について予習し各課題ごとにプレゼンテーション担当学生を指定し、その内容について学生間で討議し纏める。教員はその内容を含めてフィードバックとともにポイントを解説する。		

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解している。
	2 施設養護及び家庭養護の実際について理解している。
	3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解している。
	4 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解している。
	5 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解している。
	現代の社会的養護の実践について基礎的な知識を有する。
理想的レベル	標準的な達成基準に加えて、現代の社会的養護の実際について理解し、その内容について十分に説明できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	0	
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	
レポート外の提出物	50%	
その他	0	

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	WE21603J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

学習課題（予習・復習）

1回の目安時間（時間）

提示された課題について、予習し、プレゼンテーション・討議等の共同学習の内容、及び教員からのコメントを基に復習する。

1

授業計画

第1回	オリエンテーション 一社会的養護における子どもの理解：社会的養護Ⅰで学習した内容をもとにさらに理解を深める。
第2回	施設養護における日常生活支援 一日常生活とは何か、「一日の流れ」、新しい日常生活支援について検討する。

2025 年度

授業コード : 22112000

第 3 回	施設養護における治療的支援 一治療的支援とは何かについて学び、施設における治療的支援やその方法について学ぶ。
第 4 回	施設における自立支援 一自立とは何か、自立支援とは何かについて学ぶ。
第 5 回	社会的養護におけるアフターケア 一アドミッショնケア、インケア、リービングケアの流れを理解した上でのアフターケアについて学ぶ。
第 6 回	家庭養護の生活特性および実際 一家庭養護優先の方向性とその生活の特性について施設養護と相違点などについて学ぶ。
第 7 回	継続的支援 一継続的支援について検討する。
第 8 回	個別支援計画の策定 一個別支援計画の意味と策定の方法の実際を検討する。
第 9 回	記録および自己評価 一記録の種類や方法、情報の取り扱いについて学び、自らの職務内容についての評価あり方について学ぶ。
第 10 回	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 一施設における保育士の役割、施設種別ごとの業務内容について学ぶ。
第 11 回	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 一ソーシャルワークとその援助過程について学ぶ。
第 12 回	社会的養護における家庭支援 一社会的養護における家庭支援、施設に入所している子どもの家庭支援、地域の要支援家庭への支援について学ぶ。
第 13 回	フォスタリング 一フォスタリングとは何か、およびその機関と実際について検討する。
第 14 回	社会的養護の課題と展望 一今後の課題と展望について検討する。
第 15 回	社会的養護で働くということと全体のまとめ 一社会的養護の場面で働くことの意味および今後の在り方について全体をとおしてまとめ疑問点や課題等について整理する。
テキスト	松本峰雄監修(2024) 社会的養護 I・II ミネルヴァ書房
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	自立支援計画研究会編(2005)「子ども家族への支援計画をたてるために」日本児童福祉協会
課題に対するフィードバックの方法	基本的には各課題についてのプレゼンテーションの内容及び提出物については毎回のコメントで、またレポートについては確認後コメントを付して返却します。
学生へのメッセージ・コメント	2 年次で開講されている児童・家庭福祉と 3 年次に開講されている社会的養護 I で学習した内容について理解しておくこと。プレゼンテーションにあたっては、共同学習、相互のコミュニケーションを意識できること。

インターネットによる情報だけでなく、文献や研究論文などにもアクセスして理解を深めてください。

